

# 金正日の軍隊掌握過程

---

本章は前章に引き続き朝鮮の党軍関係を論じるものであり、2代目最高指導者である金正日の軍隊掌握の過程の分析を通じて、金正日時代の党軍関係の特徴を明らかにすることを試みる。

金正日は1974年2月13日に党中央委員会第5期第8次全例会議で金日成の後継者とされ、1980年10月の党第6次大会で初めて公式の席に姿を現し、1994年7月8日に金日成が死去すると3年の喪の期間をおき、1997年10月8日に党秘書の地位に就き、形式的にも最高指導者となった。この権力継承の過程に関して、日本では、1992年に金正日の党の掌握の過程を示した研究が発表された（鐸木 1992）。しかし、金日成の職責のうち金正日が最初に引き継いだのは人民軍最高司令官の地位であったことから、権力継承の過程における金正日の軍隊に関する活動は、党に対する活動と同様あるいはそれ以上に、重要で核心的な意味をもたずである<sup>1)</sup>。

本章では、金正日の軍隊掌握に関して、後継者決定の前と、後継者決定から金日成の死去、それ以降の金正日自身の死去までの軍隊に関する活動を分析して、その特徴を明らかにすることを試みる。

---

1) 2001年に刊行された筆者の論文では、金正日がすでに1965年から軍部隊を単独で訪問するなど軍隊に対する活動をしていたことを指摘したが、当時の資料状況ではそうした活動の内容と意義を十分に論じることができなかった（中川 2001）。

1950年6月に朝鮮戦争が始まったとき金正日は満8歳であり、7月10日～9月21日に平安南道大同郡西浦里（現：平壤市兄弟山区域西浦1～3洞）で生活したこと、10月2日～24日に慈江道長江郡にある将子山に疎開していたこと、満10歳になってから1952年6月に父親の金日成に再会し、父親に連れられて平安北道新義州でいくつかの軍部隊や楽元機械製作所、亀城紡織工場などを訪問し、25日から8月16日にかけて父親と最高司令部で生活したことが知られている。そのなかで7月10日、金日成は金正日におもちゃ代わりに家紋の入った拳銃を与えた（『民主朝鮮』2002年7月2日；『金正日全集1』2012, 1-3）。11月22日に、金正日は軍事学校のひとつに位置づけられている万景台革命家遺児学院（現：万景台革命学院）に編入したが、翌1953年9月1日に普通小学校である三石人民学校に編入学し、結局軍人の道には進まなかった。ただし、金日成は翌1954年7月に金正日を連れて咸鏡北道羅津の海軍部隊を訪問した（『労働新聞』2012年2月7日；教育図書出版社 1990, 453）。その後、金正日は南浦高級中学校を経て1960年9月1日に金日成総合大学に入学するが、その直前である8月25日に金日成は金正日を連れて平安南道肅川郡双雲里にある人民軍第105タンク師団第109連隊（第109軍部隊）を訪問した（『労働新聞』1998年12月27日；『労働新聞』2005年8月25日）。そして金日成は引き続き、咸鏡南道への現地指導に金正日を同行させ、29日に咸興で海岸防衛と工場建設に当たっている第63歩兵師団（第507軍部隊）を金正日とともに訪問した。大学入学後も、1961年5月の金日成の咸鏡南道への現地指導に同行した金正日は再び第63歩兵師団（第507軍部隊）を訪問した。

父親の教育の甲斐があったようで、大学生の金正日は1962年8月20日～10月4日の平安南道順安郡西里（現：平壤市龍城区域御恩洞）で行われた軍事野営訓練に参加した（パク ボンミョン 1999, 90-103；朝鮮労働党出版社 1999, 61-64）。金日成は、訓練で鍛錬された金正日を1963年2月6日～7日に前線西部の第2軍団（第567軍部隊）の訪問に同行させた（『労働新聞』1998年1月28日；1999年4月16日；2001年3月1日）。金正日のほうは7月28日に単独で飛行師団である第855軍部隊を訪問した（『労働新聞』1987年4月24日；1988年4月24日；1988年8月20日）。さらに金正日

は、8月3日に咸鏡北道羅津の東海艦隊（第597軍部隊）管下潜水艦部隊（第167軍部隊）を金日成とともに訪問した（『労働新聞』1980年8月28日；『民主朝鮮』2002年4月23日；『金正日全集7』2014, 13-18）。したがって、金正日は軍隊と無縁の学生時代を過ごしたのではなかった。

金正日は1964年6月19日から党中央委員会で働き始め、1970年から副部長、1973年から部長を務めた。就職してから軍隊訪問も多く、訪問先も陸海空のそれぞれの軍種、地域も西部、東部、各前線にわたった（表5-1）。『金正日選集』『金正日全集』には1964年6月から総参謀部、12月から総政治局の要員との「談話」が収められているように、人民軍の中央部署とも直接話をする間柄であった。

人民軍に対して、金正日が最高司令官である金日成の代理人として行動したのを確認することができるのは、党および軍での粛清と戦争の危機においてである。金日成が1967年5月4日～8日の党中央委員会第4期第15次全員会議で「ブルジョワ修正主義者」を批判して党内での「唯一思想体系の確立」を課題として打ち出したのに際して、金正日は29日、人民軍総政治局で勤務していた玄哲海を党中央委員会庁舎に呼び出し、党中央委員会第4期第15次全員会議文書に関する討議を進めるよう、金日成に代わって指示を出した。また、1968年6月初めに、金正日は玄哲海を呼び出し、金昌奉や許鳳学によって軍人が除隊させられた件を「反党的な行為」であると位置づけるなど、「軍閥官僚主義者」に関する調査の指示を、金日成に代わって出した（玄哲海 1992）。そして、1969年1月6日～14日の人民軍党委員会第4期第4次全員会議拡大会議で「軍閥官僚主義者」に対する粛清が総括されると、19日に金正日は党中央委員会の組織指導部と人民軍総政治局に対し金日成の決定を改めて伝達した（『金正日選集1』1991, 415-425）。

戦争の危機は1968年1月23日に人民軍海軍がアメリカ海軍の情報収集艦プエブロ号を拿捕したことで訪れた。翌24日に金正日は民族保衛省に出向き、情勢報告を受け、指揮成員たちと話し合った（『金正日全集10』2015, 389-397）。これはこの段階で金正日が人民軍の指揮官たちに対する金日成の代理人の役割を果たしていたことを意味する。そして、2月2日に金正日は党中央委員会宣伝煽動部と軍事部に対して戦闘準備を整えることに関する指示を出した（『金正日選集1』1992, 323-333）。

このように党中央委員会に就職して4～5年の間に人民軍の中央部署と党中央

表5-1 金正日の人民軍部隊訪問(1964年7月～1974年2月)

1964年	7月初め	平安北道の通信区分隊哨所
	10月18日	第855軍部隊(空軍飛行部隊)
1965年	2月7日	金日成に同行, 第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)
	5月8日	金日成に同行, 東海艦隊(第597軍部隊)魚雷艇
	5月10日～12日	金日成に同行, 第1軍団(第313軍部隊, 東部), 第527軍部隊 タンク連隊
	5月19日	第535軍部隊
	5月23日	第535軍部隊
	6月13日	第526軍部隊直属16海岸砲兵大隊1中隊
	7月3日	第219軍部隊(空軍)
	7月5日	第219軍部隊(空軍), 第746軍部隊
	7月22日	第523軍部隊8月29日工場
	7月26日	第465軍部隊
	8月17日	第11号中央病院
	8月20日	第219軍部隊(空軍)
	8月25日	第219軍部隊(空軍)
	9月1日	第219軍部隊(空軍)
	10月12日	金日成とともに第834軍部隊
1966年	2月8日	金日成とともに第865軍部隊1中隊
	3月13日	金日成とともに護衛司令部(第963軍部隊)管下女性中隊
	5月1日	姜健総合軍官学校
	6月12日	第3軍団(第526軍部隊, 西部)直属16海岸砲兵大隊
	6月24日	第3軍団(第526軍部隊, 西部)直属16海岸砲兵大隊
	7月1日～4日	第219軍部隊(空軍)
	7月7日	第219軍部隊(空軍)
	7月9日～10日	第3軍団(第526軍部隊, 西部), 軍団直属海岸砲兵大隊
	7月11日	第219軍部隊(空軍)
	7月14日	第219軍部隊(空軍)
	7月23日	第3軍団(第526軍部隊)
	8月14日	第523軍部隊8月29日工場(平安北道)
	8月25日	第219軍部隊(空軍)
	8月26日	第152軍部隊1大隊3中隊(平安北道)
	9月6日	軍事建設局(第583軍部隊) 2月6日企業所
9月12日～13日	第219軍部隊(空軍)	
9月24日	第3軍団(第526軍部隊, 西部)直属16海岸砲兵大隊1中隊, 第 219軍部隊	

	9月29日～10月1日	第219軍部隊(空軍)
	10月3日	第3軍団(第526軍部隊, 西部)直属海岸砲兵大隊
	10月18日	偵察局(第586軍部隊)
	10月20日	第483軍部隊(空軍)
	10月25日	第219軍部隊(空軍)
	11月3日	金策政治軍官学校(現・金日成政治大学)
	11月7日	リ・ムンガン所属部隊
1967年	2月8日	第3軍団(第526軍部隊)
	7月24日	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)管下海岸砲中隊
	11月5日	リ・ジョングン所属部隊
1968年	6月12日	海軍大学, ハン・ドサン所属部隊(咸鏡北道)
	8月16日	チェ・ジュンヒ所属区分隊高射砲陣地
	10月30日	リ・ヒョンファン所属部隊
1969年	5月15日	第11号中央病院
	8月5日	東海艦隊第155軍部隊
1970年	2月19日	第884軍部隊(空軍)
	6月	キム・チャンプ所属区分隊(海軍)
	6月22日	第8歩兵師団(前線東部)
	12月28日	チョン・ビョンサン所属部隊
1971年	7月29日	第164軍部隊(海軍)高速輸送艇第6252号
	11月21日	第60追撃機連隊(第447軍部隊)
1972年	6月	海軍司令部の大規模戦闘訓練
	7月19日	板門店
1973年	2月8日	金日成軍事総合大学
	8月23日	リ・ソンロク所属区分隊(海軍, 東海岸)
	8月25日	第1軍団(第313軍部隊, 前線東部)管下8月25日水産事業所, 東海艦隊第155軍部隊1編隊2中隊
	10月中旬	第3軍団(第526軍部隊, 西部)直属16海岸砲兵大隊
1974年	2月2日	ユン・ソンマン所属部隊(海軍)
	2月10日	第330軍部隊2大隊

(出所)『労働新聞』『民主朝鮮』『金正日選集』『金正日全集』などより, 筆者作成。

委員会の関連部署を、形式的には指導員あるいは課長に過ぎなかった金正日が掌握することができたのは、金日成の強い信頼とともに金日成の息子であるという立場があったためであることはいうまでもない。

## 2 後継者決定から金日成の死去まで

金正日は1974年2月13日に金日成の後継者の地位が決定したが、このときにはすでに実質的に党の軍事部門、人民軍の総政治局を指導する立場にあった。以降も部隊を訪問することはあったが、その回数は減っており（表5-2）、金正日の軍事に関する活動の重点は軍隊の中央機関のほうに移り、宣伝煽動部門の役割を強化することに移った。

最初に宣伝煽動部門に下された課題は「全軍を金日成主義化しよう」というスローガンを広めることであり、1975年1月1日の人民軍総政治局に対する金正日の指示によって開始された（『金正日選集5』1995, 1-9）。そして、次に金正日が進めた課題は、金日成の模範中隊運動、赤旗中隊運動の延長としての「三大革命赤旗爭取運動」の展開であった。この運動は12月1日に咸鏡南道剣徳鉾山で起こった生産革新運動であったが、軍隊にも政治教育と軍事技術の向上のための運動として21日に金正日が始まり、第6歩兵師団15連隊（第661軍部隊）から開始させ、同日、人民軍総政治局に軍隊内での展開を指示した。そして、この運動とともに1976年1月1日に金正日は、党中央委員会と人民軍総政治局、人民軍政治委員たちにこの運動の展開とともにスローガン「金日成同志のために命をかけて戦おう」を人民軍に広めるよう指示を出した（カンソン 1997; 外国文出版社 1998, 67; 『金正日選集7（増補版）』2011, 333-338, 391-398）。

こうして、金正日の指示を人民軍政治局、各級部隊の政治委員と組織指導部門、宣伝煽動部門が遂行するという体系が成立した。そしてこの体系を明確にしたのが、1979年2月14日の金正日が軍団級、師団級の宣伝煽動部長会議および講習会参加者に宛てた書簡「人民軍隊のなかの宣伝煽動事業を改善強化することについて」であり、このなかで宣伝煽動事業に対して政治委員が責任をもつことを指示した。この指示によって、それまで政治委員には従来からの指揮官に対する監視

表5-2 金正日の人民軍部隊訪問(1974年5月～1994年4月)

1974年	5月14日	金策空軍大学
	7月6日	板門店
	10月2日	昌麟島防御隊(西部前線)
	11月17日	第330軍部隊砲兵中隊
1975年	1月5日	第5492軍部隊管下女性砲中隊(西海, 島嶼部)
	3月	平壤高射砲司令部管下第214軍部隊訓練場(平壤市東大院区域)
	3月13日	平壤高射砲司令部(第837軍部隊)管下第379軍部隊中隊火力陣地
	7月4日	東海艦隊(第597軍部隊)
	9月	平壤高射砲司令部(第837軍部隊)管下第379軍部隊中隊火力陣地
	10月15日	東海艦隊第155軍部隊
1976年	10月19日	姜健総合軍官学校射撃場
	2月20日	人民武力部住宅工事現場
	3月22日	姜健総合軍官学校射撃場
	3月30日	姜健総合軍官学校射撃場
1977年	11月	第720軍部隊
	5月15日	軍事訓練場
1979年	7月3日	板門店
	8月3日	金日成とともに東海艦隊第155軍部隊
1980年	11月	部隊機動訓練
1982年	4月25日	金日成とともに金格植所属区分隊
	8月23日	人民軍第1521号企業所
1983年	4月25日	金日成とともに李徳龍所属タンク区分隊
1984年	4月25日	金日成とともにキム・チョンシク所属区分隊
1985年	4月25日	金日成とともに第770軍部隊
1986年	4月25日	金日成とともに第105タンク師団, 第60追撃機連隊(第447軍部隊)
	10月	ハン・ゲファ同務所属部隊(砲兵)
1987年	4月27日	金日成とともに第1歩兵師団(第115軍部隊)
1988年	4月	金日成とともに海軍部隊
	4月25日	金日成とともに第813軍部隊(空軍)
	8月17日	金日成とともに第1017軍部隊(空軍, 両江道)
1989年	4月26日	金日成とともに第763軍部隊
	10月	金日成とともに軍事訓練場
1990年	4月25日	金日成とともに平壤高射砲司令部(第837軍部隊)
1991年	4月26日	金日成とともに第499軍部隊
1993年	3月	打撃軍団訓練
1994年	4月35日	金日成とともに空軍司令部(第564軍部隊)

(出所)『労働新聞』『民主朝鮮』『金正日選集』『金正日全集』などより, 筆者作成。

とともに宣伝煽動部門の事業の遂行が加わり、部隊の政治部を直接統制することになった（金正日 1987, 145-162）。したがって、これまで別々であった指揮官に対する統制の体系と部隊の政治指導の体系が一体化したのである（図5-1）。

金正日の政治統制体系の一体化には金日成の後押しがあった。1979年2月に金日成は党中央軍事委員会で、人民軍を金正日の周りに固く団結させるよう指示を出した（朝鮮労働党出版社 1998b, 433）。さらに金日成は、12月18日～21日に人民軍党委員会第6期第20次全員会議拡大会議を開き、軍内で「唯一的領導体系」を確立することを指示した。この「唯一的領導体系」は金正日の指示を指揮官、政治委員を含む党委員会で遂行することを意味しており、すでに、金正日が政治統制体系の一体化によって作り上げていたものであった。

一方で、金正日の影響力は政治統制の領域からさらに作戦指揮や訓練の領域にまで拡大した。1979年12月には、金正日が「各級参謀部の役割を向上させる対策を立てて全般的指揮系統を強化し、指揮通信系統を現代化するようにした」という（外国文出版社 1998, 66）。そして、1982年春に金正日は、とある戦術訓練場で「実践、経験を多く組織することについての綱領的教示」を行ったという（カンソン 1997）。これらの話は、具体的な内容は公開されていないものの、金正日が作戦指揮や訓練に関する指示を出し始めたことを示している。1982年6月に金日成は、党中央軍事委員会を開き、金正日が人民軍の政治的指導のみならず軍事的指導を行うように指示したが（『労働新聞』1993年12月25日；朝鮮労働党出版社 1998b, 430-431）、金正日はすでに軍事的指導に踏み込んでいた。

金正日は1982年10月5日に金日成の各級軍事学校教員大会参加者との会見に同席したことを皮切りに、人民軍の各種公式会議に出席するようになった（表5-3）。1984年に金正日は人民軍の主要な幹部を前にして演説し、人民軍に対して党との団結を「代を継いで」維持しなければならないと述べた（金正日 1984, 3）。1985年7月26日の『労働新聞』に金日成の抗日パルチザンに参加した人民武力部の白鶴林副部長の寄稿文が掲載され、金正日が人民軍の強化発展のための指導を行っていることが発表されたことにより、党機関や軍事機関とは縁遠い人々も金正日の軍事的指導を知ることになった。1985年4月13日に、抗日パルチザンに参加していた呉振宇人民武力部長ほか8人の軍指導幹部に対する昇格および勲章授与式に金正日は出席して「人民軍を無敵の隊伍にいっそう強化しよう」と演説した（金正



表5-3 金正日が参加した人民軍の大会(1982年11月～1992年12月)

1982年11月12日～13日	人民軍砲兵大会
1983年 4月18日～20日	人民軍第8次煽動員大会
1985年 9月 2日	人民軍指揮官・政治活動家大会
1989年12月23日	人民軍第2次社労青活動家大会
1992年10月17日	人民軍士官長大会
11月12日	人民軍中隊長大会
12月25日～26日	人民軍中隊政治指導員大会

(出所)『労働新聞』により筆者作成。

日 1988, 254-255)。1991年12月24日に金正日は人民軍最高司令官に就任して公式的な作戦指揮の権限を獲得し、1992年4月20日に共和国元帥の称号を授与され軍人の身分をもつようになったが、すでに実質的には抗日パルチザン参加者という年長の人々を含めて人民軍のなかでの金正日の権威は確立されていたのである。

### 3 金日成の死去と先軍政治の開始

金正日が作戦指揮や訓練に関与することに関して、古参の軍人たちにほとんど抵抗がみられなかった背景には、金正日が革命第1世代すなわち金日成の抗日パルチザンに参加した世代の主要軍人と良好な関係にあったことがある。これを示す例として、李乙雪、呉振宇、崔光の例を挙げることができる。

李乙雪は金日成とともに帰国して建国期から戦争時に金日成の副官を務めており、1953年9月に金日成がソ連訪問に出発する際、金正日とその妹金慶喜を飛行場に送りに連れていったこともある(李乙雪 1997)。また、金正日は1979年12月に人民軍内で「呉仲治同志に学ぶ運動」の展開を指示したが、これに関して当時軍団長であった李乙雪は『労働新聞』にそれに積極的に賛同する寄稿文を寄せた(『労働新聞』1979年12月25日)。そして、李乙雪は1980年10月に党中央軍事委員会委員に選出され、1984年2月から人民軍護衛総局長に栄転し、1990年に国防委員会委員に名を連ねた。1994年7月の金日成死去後は、護衛総局長の職を尹正麟に譲ったが、2010年9月まで党中央軍事委員会委員の肩書きを維持し続け、2015年

11月に死去した。

呉振宇は、第1集団軍司令官であった1963年8月に、咸鏡南道にある休養所で金正日と直接話をするほど近い関係であった（『金正日全集7』2014, 21-26）。呉振宇はその後民族保衛省副相を経て、1967年4月から金正日が影響力を拡大しているときの人民軍総政治局長の職に就いていた。「軍閥官僚主義者」の粛清が総括されると、呉振宇は総参謀長に栄転し、1976年5月に人民武力部長となった。1986年9月7日に呉振宇が交通事故で致命傷を負ったところ、金正日が自ら警護員も連れずに平壤市第1人民病院に運び込み、金亨稷軍医大学外科学部長を呼び出して執刀させるという出来事があった（ムンヨングン 1994; リドンギョ 1998）。呉振宇は1995年2月に死去するまで人民武力部長の職にあった。

崔光は空軍司令官から総参謀長に就任して間もない1962年10月に金正日と直接話をするほどの関係であった（『金正日選集1（増補版）』2009, 274-279）。しかし、崔光は「軍閥官僚主義者」の罪行に連座する形で人民軍の編制を解かれ、地方に左遷された。金正日は1976年12月に地方にいる崔光に安否の使いを送り（崔光 2002）、1980年7月までに黄海南道人民委員会委員長に昇格させた。崔光は副総理の職を経て、1988年2月に人民軍総参謀長に復帰し、1995年2月に呉振宇が死去したことで、10月に人民武力部長に昇格し、1997年2月に死去するまでその職にあった。

こうした例にみられるとおり、金正日は金日成の死去後もできるだけ抗日パルチザン世代の軍人を要職に据えたままにした。これは建国の功臣に礼を尽くすという儒教的な考えによるところもあったであろうが、軍事に関する金日成の政治理念、政策を継承することが重視されたためであった。金正日は抗日パルチザンの軍人や朝鮮戦争を戦った軍人に戦略や戦術、作戦指揮の基本部分を任せ、自身はおもに軍隊での政治教育と思想統制、軍隊の社会的地位の向上に力を注ぐようになった。

軍隊での政治教育と思想統制に関して、金正日は三大革命赤旗争取運動を軍隊で進めてきたが、1979年2月からこの運動のなかで「呉仲洽同志に学ぶ運動」を進めてきた。呉仲洽とは1939年に戦死した金日成の部下であるが、抗日パルチザン活動のなかで示した金日成に対する忠実性、高い規律や組織能力を示したとされている。金正日はこの運動を1996年1月1日に、「呉仲洽7連隊称号争取運動」と

して、赤旗中隊運動、三大革命赤旗争取運動に続いて各部隊で進めるよう総政治局長の趙明禄に指示した（趙明禄 1999）。

軍隊の社会的地位の向上に関して、金正日は軍事力の強化を最優先に進めるという「先軍政治」「先軍思想」を自身の政治指導の基本理念として定立した。

先軍政治は初めからこの用語で語られたわけではなかった。金正日は1997年3月17日に党中央委員会の責任幹部たちに対して、党員のみならずすべての部門、すべての単位で、建設現場のような厳しいところで働く軍人の姿や軍人の芸術公演などを通じて「革命的軍人精神」を学ばせるよう指示した（『金正日選集14』2000、292-266）。この指示の内容は、『労働新聞』1997年4月7日や同11月4日の論説によって「軍事重視思想」として紹介された。

一方で、金日成時代の歴史を新たに記述する『偉大な首領 金日成同志の不滅の革命業績』シリーズが、社会科学院、金日成総合大学、金日成高級党学校、金日成政治大学、金日成軍事総合大学、人民経済大学、社会安全部政治大学、金星政治大学、国際関係大学、祖国統一研究院、朝鮮労働党出版社の研究者たちによって1996年から刊行され始めたが、1998年に刊行された第9巻では金日成の革命指導が真っ先に軍隊を建設することによって始まった「先軍革命領導」と規定された（『労働新聞』1998年11月19日；朝鮮労働党出版社 1998b, 7）。これによって、金正日の政治指導の基本理念はこの先軍革命領導を引き継ぐものとして位置づけられるようになった。

先軍革命領導という用語とともに「強盛大国」というスローガンが現れた。1998年7月に『労働新聞』政論で2度にわたり、「強盛大国建設」が強調され、1999年1月1日に『労働新聞』『朝鮮人民軍』『青年前衛』共同社説「今年を強盛大国建設の偉大な転換の年として輝かせよう」において、「強盛大国」に「思想強国」「軍事強国」「経済強国」といった内容が付加された（『労働新聞』1998年7月1日；1998年7月22日；1999年1月1日）。「思想強国」の建設とは人民を金正日の政治思想に一本化する事、「軍事強国」の建設とは人民軍を中心とした軍事力を強化すること、「経済強国」の建設とは経済各部門で生産を正常化して人民生活を安定させることを示している。そして、6月16日の『労働新聞』『勤労者』共同論説「我が党の先軍政治は必勝不敗である」によって、この「強盛大国」を実現するための政治指導が金正日による「先軍政治」とであるとされた。これによって、金正日の政治指導

の名称は「先軍政治」、その理念は「先軍思想」と名称が固定され、「先軍政治」の目的は「強盛大国」の建設であるという図式が描かれた。

2000年に「南朝鮮の政治学者の文章」として先軍政治論の解説書『金正日將軍の先軍政治』が、おもに在外同胞に向けた書籍を出版する平壤出版社から刊行された。この本が持って回ったような形をとって出版された理由は、金正日の政治指導を「まったく新しい形の方式の政治」であると位置づけたことにあるようである（金哲佑 2000, 30）。金正日の政治理念を解説するにあたって、これまで金日成の政治思想を絶対的なものとして論じてきた平壤の研究者や党直営の出版社の立場では、金正日の政治指導が先代のそれとは異なるということを言いづらかったのであろう。

この解説書では金正日の政治思想のユニークな点として、軍隊を単に戦争遂行のための組織ではなく、最高指導者および党に対する忠誠度、組織的規律、最高指導者および党の命令に関する遂行能力で社会のすべての組織の模範とすることが挙げられている。軍隊を「革命の柱」「革命の主力軍」といった表現は1997年の段階でも『労働新聞』などの公式出版物に登場していたが、軍隊を社会の見本にするという含意がこの本のようにはっきり述べられたことはなかった。平壤の研究機関や党直営の出版物がこの見本論について明確に言及するようになるには数年を要した。

2003～2005年の間に、「先軍政治」の歴史の体系化に関する作業が進められ、金正日の「まったく新しい形の政治」は金日成の政治思想を継承して時代に合わせて発展したものであるとの位置づけがなされた。新しく整理された先軍政治論の歴史は以下のようなものである。

第1に、「先軍思想」の起源は、1930年6月30日に金日成が中国長春での卡倫会議で、抗日武装闘争路線を提示したことである（朝鮮労働党出版社 2006, 41）。

第2に、金日成の「先軍革命領導」の開始は、1932年4月25日に金日成が中国安図で反日人民遊撃隊を組織したことである（朝鮮労働党出版社 1998a, 178-179; 2006, 41）。

第3に、金正日の「先軍革命領導」の開始は、1960年8月25日に金正日が金日成の人民軍第105戦車師団に対する現地指導に同行したことである（『労働新聞』2005年8月25日）。

第4に、先軍政治の開始は、1995年1月1日に金正日が平壤市東大院区域に駐屯する人民軍第214軍部隊を訪問したことである（『労働新聞』2001年12月15日）。

第5に、先軍政治の目的は強盛大国の建設である（『労働新聞』1999年6月16日）。

こうした歴史の整理によって、金正日の先軍政治が軍事を最優先するという点で金日成と同じであることが強調され、軍隊を社会の模範にするという変化の部分は時代に合わせた発展であると位置づけられた。

実際に人民軍を「革命の主力軍」にするためには強い政治教育と思想統制を実施しなければならず、金正日は「呉仲治7連隊称号争取運動」の展開を積極的に推進し、また、部隊の現地指導に足しげく通った（表5-4）。金正日が訪問した部隊で呉仲治7連隊称号を授与された部隊は、運動の展開の指示があつてから2年目に入った1998年から現れるようになるが、それだけ称号授与の判定基準が厳しいものであることがうかがわれる。

表5-4 金正日の人民軍部隊訪問(1995年1月～2011年12月)

1995年	1月1日	平壤高射砲司令部管下第214軍部隊訓練場(平壤市東大院区域)
	2月2日	第7歩兵師団(第595軍部隊)第291軍部隊3中隊
	2月5日	第7歩兵師団(第595軍部隊)第291軍部隊3中隊
	2月6日	東海艦隊第155軍部隊
	4月25日	第1017軍部隊(空軍)
	6月15日	第853軍部隊(海軍)
	8月20日	第7歩兵師団
	8月28日	第7歩兵師団(第595軍部隊)第291軍部隊3中隊
	9月13日	第893軍部隊民警哨所(前線東部)
	11月5日	第7歩兵師団(第595軍部隊)第291軍部隊3中隊
	1996年	2月20日
2月27日		前線東部351高地を守る軍部隊
2月29日		第436軍部隊(東部, 空軍)
3月13日		第436軍部隊(東部, 空軍)
3月18日		第2軍団(前線西部)
3月20日		第5軍団(前線中部)
4月25日		第2軍団(前線西部)指揮部
6月5日(報道日)		東海岸一帯を防御する軍部隊
6月11日		第853軍部隊(海軍)
10月14日		護衛司令部(第963軍部隊)
10月20日		第765軍部隊(西海岸前方)
11月1日		車光洙飛行軍官学校
11月18日		第185軍部隊
11月23日		第154軍部隊, 第792軍部隊, 椒島防御隊(いずれも海軍, 西海岸)
11月24日		板門店
12月1日		第105タンク師団
12月8日		姜健総合軍官学校
12月15日	金日成政治大学	
12月31日	第938軍部隊	
1997年	3月3日	第212軍部隊(西海岸最前方)
	3月18日	第834軍部隊
	4月15日	第2歩兵師団(前線東部)
	4月24日	第969軍部隊
	4月30日(報道日)	第3415軍部隊女性軍人軍事訓練

	6月5日	金正淑海軍大学, 第597軍部隊(東海艦隊)
	6月10日	第4軍団指揮部(西海岸前方)
	6月23日	第1106軍部隊島防御隊(熊島防御隊)
	6月29日	第671軍部隊(第425機械化歩兵師団)
	7月27日	第821軍部隊女性放射砲大隊
	9月10日	金日成軍事総合大学
	9月15日	第1地区司令部(第287軍部隊, 東海岸)島防御隊(麗島防御隊)
	9月17日	第91首都防御軍団(第966軍部隊)指揮部
	9月28日	工兵局(第576軍部隊,「吳仲治7連隊称号争取運動」判定検閲中)
	10月10日	空軍司令部(第564軍部隊)
	11月2日	第4軍団(第233軍部隊)前方指揮所
	11月10日	東海最前線の無人島防御隊
	11月24日	第7歩兵師団(第595軍部隊)第291軍部隊3中隊
	11月28日	第163軍部隊女性海岸砲中隊
	11月29日	第9軍団(第264軍部隊, 北部)指揮部
	11月30日	金策空軍大学
1998年	1月1日	第815機械化歩兵師団(第337軍部隊)
	1月20日	第12軍団(第380軍部隊, 白頭山地帯)指揮部
	1月28日	第2軍団(第567軍部隊, 前線西部)前方指揮所
	2月2日(報道日)	第443軍部隊(東部最前線)
	2月4日(報道日)	第806機械化歩兵師団(第757軍部隊)
	2月6日	東海艦隊第155軍部隊
	2月24日	第224軍部隊(西海最前線), 第230軍部隊
	3月10日	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)管下海岸砲中隊
	3月12日	第406軍部隊(海軍)
	4月15日	第1軍団(第313軍部隊)
	4月25日	第108機械化歩兵師団(第604軍部隊)
	5月3日	第806機械化歩兵師団(第757軍部隊)
	5月4日	第681軍部隊管下砲兵中隊, 第937軍部隊(前線東部)
	5月10日	金哲柱砲兵軍官学校
	5月13日(報道日)	第860軍部隊(空軍)
	5月22日	第1軍団(東部)第171軍部隊
	5月31日	第845軍部隊, 第169軍部隊
	6月7日	第622軍部隊前方指揮所
	6月22日(報道日)	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)管下砲中隊

	7月26日	第425機械化歩兵師団(第671軍部隊)
	8月3日	第5軍団(第549軍部隊, 前線中部)
	10月6日	金日成軍事総合大学, 美林飛行場
	10月25日	第465軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	11月2日	第8軍団(第593軍部隊, 朝中国境)指揮部
	11月9日	第1202軍部隊島防御隊(熊島防御隊)
	11月10日	第5軍団(第549軍部隊, 前線中部)
	11月13日	金亨權通信兵軍官学校
	11月18日	第3421軍部隊(女性軍部隊)
	12月17日	第7歩兵師団
	12月19日(報道日)	教導指導局(第570軍部隊)指揮部
	12月24日	第969軍部隊女性高射砲中隊
1999年	1月20日	崔賢軍官学校
	2月	第12軍団(第380軍部隊, 白頭山地帯)指揮部
	2月9日(報道日)	第5歩兵師団(第615軍部隊)
	2月16日	第991軍部隊管下女性高射銃中隊, 金日成軍事総合大学冬季訓練
	3月13日(報道日)	智慧山一帯を防御する人民軍軍部隊(前線東部), 第720軍部隊
	3月26日	第9軍団(第264軍部隊, 北部)
	3月29日	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)指揮部
	4月5日	第2軍団(第567軍部隊, 前線西部)
	4月15日	開豊郡一帯を防御する軍部隊
	4月25日	第690軍部隊と第946軍部隊の軍事訓練, 護衛司令部(第963軍部隊)管下区分隊
	5月5日	第1地区司令部(第287軍部隊, 東海岸)前方指揮所
	5月10日	第959軍部隊(高射砲兵, 平壤市龍城区域)
	5月18日	タンク自動車兵軍官学校
	5月28日	第4歩兵師団
	5月31日	第12歩兵師団12砲連隊(第833軍部隊)
	6月29日(報道日)	第409軍部隊
	7月27日	東海艦隊第155軍部隊
	8月30日	第635軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	9月8日	護衛司令部(第963軍部隊)
	10月5日	第806機械化歩兵師団
	10月6日	第63歩兵師団(第507軍部隊, 東部最前線)
	10月12日	第1130軍部隊島防御隊(郡花島防御隊)

	10月17日	第1224軍部隊
	11月18日(報道日)	第715軍部隊
	11月29日	第15歩兵師団(第775軍部隊)
	12月6日	第776軍部隊
	12月23日	第820訓練所(第488軍部隊)
2000年	1月26日	第1158軍部隊
	1月31日(報道日)	第667軍部隊
	2月10日	第7歩兵師団
	2月12日(報道日)	第440軍部隊女性海岸砲中隊
	2月18日	第894軍部隊
	4月2日	自動化大学
	4月9日	第1311軍部隊, 人民軍第3995軍部隊管下中隊, 第1973軍部隊管下2大隊
	4月15日	海軍司令部
	4月25日	人民軍第1321軍部隊(前線東部)
	7月4日	第3971軍部隊(東海岸)
	7月5日	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)
	11月22日	第12歩兵師団12砲連隊(第833軍部隊)
	12月5日	第350軍部隊
	12月24日	第2752軍部隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	12月27日	第3歩兵師団(第395軍部隊)
2001年	1月1日	第932軍部隊
	2月7日	第6歩兵師団(第655軍部隊)
	4月10日	第884軍部隊(空軍)
	4月15日	第2629軍部隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	4月16日	第3427軍部隊砲大隊
	4月17日	第841軍部隊, 第998軍部隊
	4月25日	第425機械化歩兵師団(第671軍部隊)
	5月7日	第2軍団(前線西部)管下第415軍部隊
	5月8日	第688軍部隊
	5月10日	第224軍部隊管下砲中隊, 第230軍部隊砲中隊
	5月13日	第4軍団28師団(第243軍部隊) ]管下砲中隊
	5月18日	第1129軍部隊, 第8歩兵師団(第851軍部隊)
	5月19日	第863軍部隊管下大隊
	5月20日	第256軍部隊(海軍)
	5月24日	第173軍部隊
	5月25日	第826軍部隊

	6月15日	東海艦隊(第597軍部隊), 第288軍部隊(空軍)
	6月21日	第983軍部隊
	6月25日	第1歩兵師団(「吳仲洽7連隊称号」授与)
	8月19日	第696軍部隊
	8月28日	第2796軍部隊管下前線哨所(前線東部)
	9月11日	第821軍部隊, 第368軍部隊
	9月16日	第194軍部隊
	9月18日	第535軍部隊管下区分隊, 人民軍第211軍部隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	11月9日	第165軍部隊
	11月12日	第15歩兵師団砲連隊(第397軍部隊)
	12月21日	第529軍部隊
	12月22日	第2833軍部隊
	12月27日	第646軍部隊
2002年	1月6日	第942軍部隊
	2月1日	第1200軍部隊
	2月2日	第179軍部隊, 第15歩兵師団49連隊(第779軍部隊)
	2月5日	第138軍部隊
	3月1日	第891軍部隊
	3月11日	第319軍部隊
	3月13日	戦略ロケット司令部(第639軍部隊)
	4月3日	空軍司令部傘下西海航空俱樂部
	4月11日	第834軍部隊
	5月1日	海軍司令部
	5月19日	第858軍部隊(空軍)
	6月1日	第823軍部隊(東部)
	6月6日	第156軍部隊
	6月15日	第105タンク師団第109タンク部隊(第478軍部隊)
	7月5日	高射砲兵軍官学校
	7月6日	第744軍部隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	10月14日	第8歩兵師団(第851軍部隊, 前線東部)
	10月14日	第368軍部隊
	10月18日	第863軍部隊
	10月22日	第63歩兵師団(第507軍部隊)
	12月3日	第1106軍部隊島防衛隊(麗島防衛隊)
	12月11日	第1歩兵師団(第115軍部隊, 「吳仲洽7連隊」称号授与)
	12月18日	第323軍部隊(航空陸戦兵)

2003年	1月17日	第860軍部隊(空軍)
	1月23日	第230軍部隊
	1月24日	第301軍部隊
	1月31日	第4軍団28師団(第243軍部隊)
	2月1日	第2774軍部隊(「呉仲治7連隊称号」授与)
	2月3日	西海艦隊(第587軍部隊)
	2月10日	後方軍官学校
	4月3日	金亨稷軍医大学
	4月4日	第2287軍部隊, 第240軍部隊
	4月10日	第887軍部隊(空軍)
	4月11日	第205軍部隊
	4月27日	第409軍部隊
	4月28日	第318軍部隊
	5月1日	第824軍部隊
	5月16日	第841軍部隊
	5月19日	第292軍部隊管下区分隊(前線)
	5月23日	人民軍第1973軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	5月28日	第388軍部隊(海軍)
	5月29日	第1174軍部隊(最前線)
	5月30日	第934軍部隊
	6月1日	第716軍部隊
	6月9日	第855軍部隊(空軍)
	6月18日	第2軍団(第567軍部隊, 前線西部)直屬中隊
	6月20日	第763軍部隊
	7月7日	第654軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	7月16日	第9軍団(第264軍部隊, 北部)直屬中隊
	7月17日	第581軍部隊
	7月22日	第292軍部隊(前線)
	7月29日(報道日)	第675軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	7月31日(報道日)	第669軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	8月1日(報道日)	第821軍部隊直屬中隊
	8月2日(報道日)	第806機械化歩兵師団(第757軍部隊), 第1地区司令部(第287軍部隊, 東海岸)直屬中隊
10月24日(報道日)	第821軍部隊管下パク・ジョンシク英雄中隊, 第894軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)	
10月26日(報道日)	第370軍部隊	
10月28日(報道日)	第802軍部隊	
10月29日(報道日)	第4歩兵師団(第485軍部隊)	

	12月9日(報道日)	第350軍部隊
	12月10日(報道日)	第1312軍部隊
	12月10日	第1314軍部隊
	12月12日(報道日)	第1292軍部隊, 第776軍部隊直属中隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	12月14日(報道日)	第3993軍部隊, 第138軍部隊管下中隊
	12月16日(報道日)	第1925軍部隊
	12月26日(報道日)	第2106軍部隊
2004年	1月14日(報道日)	第4428軍部隊
	1月15日(報道日)	第943軍部隊
	1月29日(報道日)	第844軍部隊
	1月30日(報道日)	第493軍部隊
	2月3日(報道日)	第614軍部隊
	2月10日(報道日)	第1128軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	2月12日	第162軍部隊(航空陸戦旅団)
	2月13日	第1549軍部隊
	2月24日	第131軍部隊指揮部
	3月2日(報道日)	第252軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	3月6日	第272軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	3月26日(報道日)	第916軍部隊
	3月27日(報道日)	第979軍部隊
	4月1日	第1056軍部隊直属女性中隊
	4月11日(報道日)	第205軍部隊管下中隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	4月12日(報道日)	第980軍部隊管下区分隊
	4月13日(報道日)	第156軍部隊管下区分隊
	4月15日(報道日)	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道), 第297軍部隊管下中隊
	4月16日(報道日)	第344軍部隊(空軍)
	5月3日(報道日)	第4302軍部隊
	5月8日(報道日)	第12歩兵師団12砲連隊(第833軍部隊)直属中隊
	6月1日	第458軍部隊(空軍)
	6月9日(報道日)	第952軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	6月12日(報道日)	通信局(第573軍部隊,「呉仲洽7連隊」称号授与)
	6月22日(報道日)	前線西部に位置する大連合部隊指揮部
	7月28日(報道日)	第163軍部隊, 第8歩兵師団(第851軍部隊)管下中隊
	7月29日	第821軍部隊管下区分隊
	8月12日(報道日)	第3882軍部隊管下区分隊
	8月15日(報道日)	第258軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)

	8月28日	東海艦隊第155軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	9月3日(報道日)	第363軍部隊
	9月4日(報道日)	第12歩兵師団12砲連隊(第833軍部隊)新入兵士訓練区分隊
	10月5日(報道日)	第2734軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	10月12日(報道日)	第2623軍部隊(空軍)
	10月12日	第60追撃機連隊(第447軍部隊,「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月17日(報道日)	第754軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月20日(報道日)	第1226運輸区分隊
	11月22日(報道日)	第109タンク部隊(第109軍部隊)直属中隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月30日(報道日)	第3875軍部隊
	12月10日(報道日)	第5848軍部隊管下中隊
	12月10日	第153軍部隊(咸鏡北道)
	12月11日(報道日)	第854軍部隊(空軍)
	12月17日(報道日)	第448軍部隊
	12月23日(報道日)	第541軍部隊
	12月30日(報道日)	第563軍部隊
	12月31日	第11軍団(特殊作戦軍)第2625軍部隊(女性落下傘部隊,「呉仲治7連隊」称号授与)
2005年	1月22日(報道日)	第929軍部隊
	1月28日(報道日)	第347軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	4月7日(報道日)	第487軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	4月9日(報道日)	第837軍部隊(平壤高射砲司令部)指揮部
	4月20日(報道日)	第2040軍部隊管下中隊
	4月22日(報道日)	第720軍部隊直属中隊
	4月23日(報道日)	第2183軍部隊
	4月24日(報道日)	第2015軍部隊
	4月25日(報道日)	第4313軍部隊管下区分隊
	4月27日	第1軍団(第313軍部隊)指揮部
	5月25日(報道日)	第370軍部隊管下女性中隊
	5月29日(報道日)	第4349軍部隊
	5月30日(報道日)	第205軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	5月31日(報道日)	第3407軍部隊
	6月1日(報道日)	第471軍部隊管下中隊, 第578軍部隊管下女性中隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	6月2日(報道日)	第992軍部隊
	7月20日(報道日)	第937軍部隊(前線東部)
	7月21日(報道日)	第118軍部隊指揮部

	7月22日(報道日)	第2653軍部隊
	7月22日	第1地区司令部(第287軍部隊, 東海岸) 新島防御中隊
	7月25日(報道日)	第503軍部隊
	8月3日(報道日)	第5軍団司令部(前線中部), 第5歩兵師団(第615軍部隊)
	8月4日(報道日)	第228軍部隊直屬中隊
	9月3日(報道日)	第292軍部隊管下区分隊
	9月4日(報道日)	第1652軍部隊
	9月22日(報道日)	第916軍部隊直屬中隊
	10月22日(報道日)	第3軍団(第526軍部隊)指揮部
	11月10日(報道日)	第847軍部隊
	11月11日(報道日)	第802軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	11月12日(報道日)	第1337軍部隊管下中隊(前線)
	11月13日(報道日)	第1188軍部隊管下中隊
	11月14日(報道日)	第4302軍部隊管下女性中隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	11月15日(報道日)	第1地区司令部(第287軍部隊, 東海岸)直屬中隊
	11月20日(報道日)	第2023軍部隊管下女性中隊
	11月21日(報道日)	第338軍部隊
	11月23日	第2歩兵師団(第235軍部隊)
	11月25日(報道日)	第456軍部隊管下中隊(前線)
	11月26日(報道日)	第715軍部隊直屬中隊(前線)
	11月27日(報道日)	第15師団50連隊(第781軍部隊)
	11月28日(報道日)	第638軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	12月8日(報道日)	第744軍部隊(「呉仲洽7連隊」称号授与)
	12月9日(報道日)	第5883軍部隊管下女性中隊, 第2191軍部隊管下中隊
	12月10日(報道日)	第667軍部隊
	12月19日(報道日)	第946軍部隊管下区分隊
	12月20日(報道日)	砲兵司令部(第531軍部隊)直屬区分隊
	12月30日(報道日)	第2651軍部隊
	12月31日(報道日)	第953軍部隊
2006年	1月28日(報道日)	第932軍部隊
	2月7日(報道日)	第1687軍部隊
	2月23日(報道日)	第120軍部隊
	2月24日(報道日)	第226軍部隊
	3月2日(報道日)	第1522軍部隊
	3月2日	第991軍部隊(空軍)
	3月19日(報道日)	第8歩兵師団(第851軍部隊)前方指揮所
	3月21日(報道日)	第824軍部隊管下女性区分隊

3月22日(報道日)	第108機械化歩兵師団(第604軍部隊)管下区分隊
3月23日(報道日)	第435軍部隊指揮部
3月24日(報道日)	第236軍部隊新入兵士養成軍部隊
3月25日(報道日)	第3406軍部隊
4月5日(報道日)	第821軍部隊管下砲兵中隊
4月6日(報道日)	第292軍部隊管下女性中隊(前線)
4月9日(報道日)	108機械化歩兵師団(第604軍部隊)管下タンク装甲車運転員養成区分隊
4月10日(報道日)	第205軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
4月12日(報道日)	第814軍部隊(空軍)
4月13日(報道日)	第406軍部隊(海軍,「呉仲治7連隊」称号授与)
4月16日(報道日)	第760軍部隊直属中隊
4月22日(報道日)	第196軍部隊
4月25日(報道日)	第3240軍部隊
5月11日(報道日)	第838軍部隊管下女性中隊
5月15日(報道日)	東海艦隊第155軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
5月16日(報道日)	第1891軍部隊
5月17日(報道日)	第1464軍部隊
5月21日(報道日)	第5軍団(第549軍部隊)管下指揮官養成軍部隊
5月24日(報道日)	第194軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
5月27日(報道日)	第797軍部隊(空軍,「呉仲治7連隊」称号授与)
5月29日(報道日)	第9軍団(第264軍部隊,北部)指揮部
5月30日(報道日)	第215軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
5月31日(報道日)	第4318軍部隊管下区分隊
6月1日(報道日)	第294軍部隊
6月2日(報道日)	第269軍部隊(海軍)
6月3日(報道日)	第7軍団(第324軍部隊,咸鏡南道)管下青年活動家養成区分隊
6月5日(報道日)	第2725軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
6月7日(報道日)	第970軍部隊(空軍)
6月12日	第91首都防衛軍団(第966軍部隊)
6月13日(報道日)	第147軍部隊
6月13日(報道日)	第6歩兵師団13連隊(第657軍部隊)
6月19日	第790軍部隊駆潜艇233号
6月20日(報道日)	第401軍部隊(海軍)
6月22日(報道日)	第715軍部隊直属区分隊(前線)
6月27日(報道日)	第292軍部隊管下区分隊(前線)
6月28日(報道日)	第823軍部隊管下区分隊

	8月28日(報道日)	第1643軍部隊, 第8歩兵師団(第851軍部隊)直屬中隊
	9月9日(報道日)	第1824軍部隊
	9月12日(報道日)	第8211軍部隊
	11月3日(報道日)	第1112軍部隊(「吳仲治7連隊」称号授与)
	11月4日	第7歩兵師団(第595軍部隊)管下女性海岸砲中隊
	11月29日(報道日)	第1324軍部隊
	11月29日	第1174軍部隊管下女性中隊(「吳仲治7連隊」称号授与)
	12月3日(報道日)	第132軍部隊訓練場
	12月5日(報道日)	第1313軍部隊管下チョ・ヨンホ英雄中隊(「吳仲治7連隊」称号授与)
	12月6日(報道日)	第109タンク部隊(第109軍部隊(「吳仲治7連隊」称号授与)
	12月7日(報道日)	第3993軍部隊管下女性大隊
	12月8日(報道日)	第105タンク師団直屬区分隊
	12月9日(報道日)	第946軍部隊指揮部(「吳仲治7連隊」称号授与)
	12月24日(報道日)	第934軍部隊指揮部
	12月25日(報道日)	第109タンク部隊(第109軍部隊, 吳仲治7連隊)称号授与)
	12月26日(報道日)	第3993軍部隊管下区分隊
2007年	1月15日(報道日)	第8軍団(第593軍部隊, 朝中国境)指揮部
	1月16日(報道日)	第398軍部隊指揮部
	2月	第581軍部隊
	3月16日(報道日)	第105タンク師団指揮部
	3月19日	第350軍部隊指揮部
	4月21日(報道日)	第1637軍部隊
	4月21日	東海艦隊第790軍部隊(海軍, 「吳仲治7連隊」称号授与)
	5月4日(報道日)	第967軍部隊管下区分隊
	5月5日(報道日)	第977軍部隊(「吳仲治7連隊」称号授与)
	7月31日(報道日)	第4318軍部隊管下区分隊
	8月1日(報道日)	第9軍団(第264軍部隊, 北部)指揮部
	8月2日(報道日)	第136軍部隊
	8月3日(報道日)	第273軍部隊
	8月10日(報道日)	第156軍部隊管下区分隊
	8月13日(報道日)	第1286軍部隊
	11月8日(報道日)	第479軍部隊管下区分隊
	11月9日(報道日)	第627軍部隊指揮部
	11月11日(報道日)	第291軍部隊管下区分隊(海軍)
	11月21日(報道日)	第297軍部隊管下中隊
	11月22日(報道日)	第874軍部隊(空軍)

	12月1日(報道日)	第1159軍部隊
	12月4日	第378軍部隊(空軍)
	12月14日(報道日)	第255軍部隊指揮部
	12月16日(報道日)	第1971軍部隊指揮部
	12月17日(報道日)	第1925軍部隊管下区分隊
	12月18日	第1701軍部隊
	12月19日	第776軍部隊直屬輸送中隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	12月21日(報道日)	第1315軍部隊
	12月22日	第189軍部隊(海軍,「呉仲治7連隊」称号授与)
2008年	1月7日(報道日)	第776軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	1月31日(報道日)	第375軍部隊指揮部
	2月14日(報道日)	第776軍部隊管下大隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	4月5日(報道日)	第350軍部隊
	4月6日(報道日)	第776軍部隊管下新入兵士訓練区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	4月7日(報道日)	第493軍部隊直屬中隊
	4月9日(報道日)	第152軍部隊指揮部(海軍)
	4月10日(報道日)	第815機械化師団(第337軍部隊)指揮部, 第109タンク部隊(第109軍部隊,「呉仲治7連隊」称号授与)
	5月3日(報道日)	第720軍部隊直屬部隊, 第409軍部隊管下中隊
	5月5日(報道日)	第1105軍部隊
	5月8日(報道日)	第351軍部隊指揮部, 第927軍部隊指揮部
	5月10日(報道日)	第745軍部隊指揮部
	5月25日(報道日)	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)直屬輸送大隊
	5月26日(報道日)	第836軍部隊管下区分隊, 第1727士官養成軍部隊
	6月9日(報道日)	第176軍部隊管下区分隊
	6月10日(報道日)	第958軍部隊
	6月11日(報道日)	第10歩兵師団(第756軍部隊)管下区分隊
	7月10日(報道日)	第895軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	7月11日(報道日)	第289軍部隊
	7月19日(報道日)	第205軍部隊管下砲中隊(「呉仲治7連隊」称号授与), 第3898新入兵士訓練軍部隊
	8月1日(報道日)	第1622軍部隊
	8月2日(報道日)	東海艦隊第155軍部隊管下区分隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	8月4日(報道日)	第1353軍部隊, 第1366軍部隊
	8月5日(報道日)	第3704軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	8月6日(報道日)	第891軍部隊偵察中隊
	8月9日(報道日)	第3407軍部隊管下女性中隊

	8月11日(報道日)	第669軍部隊直屬中隊(「吳仲洽7連隊」称号授与), 第1374軍部隊女性中隊
	8月14日(報道日)	第1319軍部隊
	10月10日(報道日)	第821軍部隊管下女性砲中隊
	11月4日(報道日)	第2200軍部隊
	11月4日	後方総局(第534軍部隊)直屬騎馬訓練場
	11月16日	第7歩兵師団
	12月19日(報道日)	第955軍部隊指揮部
	12月27日(報道日)	第1017軍部隊(空軍), 航空陸戰旅団(第323軍部隊)指揮部
2009年	1月2日(報道日)	第105タンク師団(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	1月4日(報道日)	砲兵司令部管下第1489軍部隊
	1月17日(報道日)	第2752軍部隊管下区分隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	1月31日(報道日)	第131軍部隊管下区分隊(「吳仲洽7連隊」称号授与)
	2月6日(報道日)	第7軍団(第324軍部隊, 咸鏡南道)
	2月11日(報道日)	砲兵司令部管下第681軍部隊
	3月8日	金日成政治大学
	3月14日(報道日)	砲兵司令部管下第1811軍部隊
	3月14日	第7歩兵師団
	4月25日	第8歩兵師団(第851軍部隊)
	5月21日(報道日)	第814軍部隊(空軍)
	6月13日(報道日)	第7歩兵師団指揮部
	7月17日(報道日)	東海艦隊(第597軍部隊)
	8月12日(報道日)	金正淑海軍大学
	9月12日	第9軍団(第264軍部隊, 北部)指揮部
	9月13日(報道日)	東海艦隊(第597軍部隊)
	11月8日(報道日)	第1224軍部隊
	11月27日(報道日)	西海艦隊(第587軍部隊)指揮部
	11月29日(報道日)	第109タンク部隊(第109軍部隊)管下大隊
2010年	1月5日	第105タンク師団管下区分隊
	1月16日	陸海空軍協同訓練
	1月31日	第11軍団(第630軍部隊, 特殊作戰軍)指揮部
	4月13日(報道日)	第2軍団(第567軍部隊, 前線西部)総合訓練
	4月24日(報道日)	第1歩兵師団(第115軍部隊, 「吳仲洽7連隊」称号授与)
	4月25日(報道日)	偵察局(第586軍部隊)指揮部
	6月19日(報道日)	第8軍団(第593軍部隊)指揮官講習所
	10月5日(報道日)	第8歩兵師団(第851軍部隊)
	10月25日(報道日)	国家安全保衛部(第10215軍部隊)

	11月12日	第3875軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	12月16日(報道日)	第2670軍部隊
	12月31日(報道日)	第105タンク師団
2011年	2月2日	第6556軍部隊指揮部
	7月24日	海軍司令部
	10月19日	第4304軍部隊
	10月22日	護衛司令部管下第985軍部隊指揮部
	10月31日	第789軍部隊
	11月2日	空軍師団(管下に第60追撃機連隊,「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月3日	第322軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月7日	第813軍部隊(空軍,「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月25日	第4軍団(第233軍部隊)指揮部
	11月26日	第1016軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	11月30日	第11軍団(第630軍部隊,特殊作戦軍),第169軍部隊管下中隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	12月3日	第378軍部隊(「呉仲治7連隊」称号授与)
	12月13日	第91首都防衛軍団(第966軍部隊)火力打撃訓練場

(出所)『労働新聞』などにより筆者作成。

## まとめ

金正日は金日成の息子であることで革命第1世代の人脈もあり、金日成が軍隊訪問に同行させたことで軍隊を身近にみてきた。党中央委員会に就職してからも金日成の軍隊訪問への同行のみならず、単独で部隊を訪問するようになり、後継者に決定するときにはすでに金日成の代理人として軍事部門に影響力を及ぼすようになっていた。後継者に決定してからも、金正日は宣伝煽動事業を中心に人民軍に対する影響力を拡大していったことから、人民軍で指揮官を監視している政治委員も宣伝煽動事業に責任をもたせるようにさせた。1979年からは金正日の影響力は作戦指揮や訓練の領域に拡大し、1991年に人民軍最高司令官に地位に就いた時には、すでに人民軍内での金正日の権威は確立していた。

金日成の死後の大きな変化は金正日が軍隊を政治教育や指導統制に関して社会の見本にしようとする活動を開始したことである。具体的には、その活動は呉仲治7連隊称号争取運動の展開であり、金正日自身の頻繁な現地指導であった。そして、本書第3章でみたように、1998年の最高人民会議代議員選挙で軍隊選挙区を設置するなどして軍人の議席数を増加させたことは、これに関連して軍隊の社会的地位を向上させるものであった。

党が金正日の「先軍政治」を金日成時代からの連続として説明するようになるまで数年を要したことは、我々のような外部からの観察者のみならず朝鮮の人々にとっても、変化をわかりにくくした原因であろう。金正日は軍隊を恐れたがために頻繁に部隊を訪れてご機嫌伺いをしていたわけではなく、自ら現場に出向いてその現場の軍人たちを政治教育と思想統制の模範に作り上げるべく指導し、一方で軍隊の社会的地位を向上させて、軍隊を見本とすることが社会的に受け入れられるための素地を作ろうとしていたのである。

[文獻目錄]

〈日本語文献〉

外国文出版社 1998.『金正日略伝』平壤, 外国文出版社.

鐸木昌之 1992.『北朝鮮——社会主義と伝統の共鳴』東京大学出版会.

中川雅彦 2001.『朝鮮民主主義人民共和国における軍隊統制——金日成, 金正日と朝鮮人民軍』『アジア経済』42(11): 2-27.

〈朝鮮語文献〉

강성 [カン・ソン] 1997.『영웅적조선인민군을 무적필승의 강군으로 강화발전시키신 경애한 김정일동지의 위대한 령도 [英雄的朝鮮人民軍を無敵必勝の強軍に強化発展させた敬愛する金正日同志の偉大な領導]』『력사과학 [歴史科学]』(1), 1997年, 평양 [平壤].

교육도서출판사 [教育図書出版社] 1990.『조선지리지전서 《혁명사적지리》[朝鮮地理全書《革命事跡地理》]』出版地記載なし, 교육도서출판사 [教育図書出版社].

김정일 [金正日] 1984.『인민군대는 자기의 수령과 당, 자기의 제도와 조국을 목숨을 바쳐서 사수하여야 한다——조선인민군창건52돐경축연회에서 한 연설 [人民軍は自己の首領と党, 自己の制度と祖国を命をかけて死守しなければならない——朝鮮人民軍創建52周年慶祝宴會で行った演説]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

—— 1987.『주체혁명업의 완성을 위하여4 [主体革命偉業の完成のために4]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

—— 1988.『주체혁명업의 완성을 위하여5 [主体革命偉業の完成のために5]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

김철우 [金哲佑] 2000.『김정일장군의 선군정치 [金正日將軍の先軍政治]』 평양 [平壤], 평양출판사 [平壤出版社].

리동규 [리ドン규] 1998.『지혜도 열정도 담력도 다 안겨주시어 [知恵も熱情も胆力もすべて抱きなさって]』『주체시대를 빛내이시며33 [主体時代を輝かせなさって33]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

리을설 [李乙雪] 1997.『수박을 볼때마다 [西瓜をみるたびに]』『인민들속에서55 [人民のなかで55]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

문영근 [문영근] 1994.『이른새벽에 있던 일 [明け方にあったこと]』『주체시대를 빛내이시며27 [主体時代を輝かせなさって27]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

박봉면 [박봉면] 1999.『잊을수 없는 실탄사격장에서 [忘れることのできない実弾射撃]』『주체시대를 빛내이시며2 [主体時代を輝かせなさって2]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

조명록 [趙明祿] 1999.『《오중흥7련대칭호쟁취운동》의 위대한 봉화 [《吳仲治7連隊稱号爭取運動》の偉大な烽火]』『주체시대를 빛내이시며35 [主体時代を輝かせなさって35]』 평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].

조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社] 1998a.『위대한 수령 김일성동지의 불멸의 혁명업적4——

- 조국해방전쟁의 위대한 승리 [偉大な首領 金日成同志の不滅の革命業績4——祖国解放戦争の偉大な勝利]』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 1998b.『위대한 수령 김일성동지의 불멸의 혁명업적9——주체형의 혁명 무력 건설 [偉大な首領 金日成同志の不滅の革命業績9——主体型の革命武力建設]』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 1999.『김정일동지락전 [金正日同志略伝] (第2版)』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 2006.『우리 당의 선군정치 (증보판) [我が党の先軍政治] (増補版)』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 최광 [崔光] 2002.『로간부들이 건강해야 젊은 세대들도 더 힘이 날게 아닙니까 [老幹部たちが健康でこそ若い世代たちも力が出るようになるのではないですか]』『주체시대를 빛내이시며 18 [主体時代を輝かせなさって18] (第2版)』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 현철해 [玄哲海] 1992.『당군을 키우시는 길에서 [党軍を育てる道で]』『주체시대를 빛내이시며 25 [主体時代を輝かせなさって25]』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 『김정일선집 [金正日選集] (各卷)』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 『김정일전집 [金正日全集] (各卷)』평양 [平壤], 조선로동당출판사 [朝鮮労働党出版社].
- 『로동신문 [労働新聞]』평양 [平壤], 로동신문사 [労働新聞社].
- 『민주조선 [民主朝鮮]』평양 [平壤], 민주조선사 [民主朝鮮社].

©Masahiko Nakagawa 2025

本書は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際」の下で提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

